ハワイ大学語学研修の記録

2017/03/22

ハワイ大学語学研修を実施する意義

学生たちは、このハワイ大学語学研修から沢山の学びを得た。プログラムの事前学習で一島正真名誉教授よりハワイ日系移民の歴史を知り、その当時の人々の暮らしとその宗教観を学んだ。観光地として知られているオアフ島には、多くの日本人が日本より移民をし現在の日系社会を作った背景がある。昨年に引き続き研修では、ハワイ浄土宗別院、そして天台宗ハワイ別院を訪問した。ハワイ浄土宗別院では日曜礼拝に参加し淑徳大学の学生とも交流を計った。更にはハワイ日本文化センターにも訪問した。ハワイ大学では、宗教学部学部長モール先生による、日系移民の歴史と取り巻く仏教を学んだ。この、研修の背骨は、外から見る日系移民の歴史を知りながら現代のハワイを学ぶことであった。それ以外にも、勿論、英語力を身に付けることに重点が置かれた。コミュニケーション能力を身に付けるために、ハワイ大学の学生と沢山、話ができた。相手に伝える力をつけること、それが今、求められている。

もう一つ学生たちは大事なことを学んできた。社会適応力　ー　同じ目的を持った学生が集まり行動をすることの難しさ。自分の思いだけを通しては、何もうまくいかないことを学び、集団の中での自分を見い出すこと。社会適応能力を高めることで自分を成長させることが出来ること。時間を守り、約束事を守り、自主的に行動し、正しい判断をすること、今の若い人々が最も苦手とすることを、語学研修の集団生活の中で学ぶ。

ハワイ大学語学研修を通して学ぶことはたくさんあり、成長した研修であった。

この号の内容

語学研修を終えて 1

各学生レポート..... 2

研修資料..... 3

付録 4

重要な日付

02/04　成田空港に集合でした

02/18　ダイヤモンドヘッド登山

02/26　思い出の写真

内向化が進む大学の中で

日本の学生に「内向化」が進み、その結果「海外に出ない」「留学は面倒」「わざわざ苦労するのは」という学生が増加傾向にあることが報告されている。確かに、大正大学においても同様の動きや傾向がここ数年見受けられる。特に男子学生の内向化は顕著になっているように思われる。今回のハワイ大学の研修を通しても参加者の全体数で女子学生13に対して男子学生3の割合になっている。男子学生は更に、内向化が進んでいる。この主な原因は、他大学でも同じであろうが、大学生活の中で時間的な余裕と金銭的な余裕が持てない学生と言語での障壁が、その原因となっているように推察される。このプログラムには、ハワイへのステレオタイプ観が見え隠れしていた。

本校が実施している「ハワイ大学語学研修」も上記のような影響を受け、参加者の数が少なかったが実施を継続する事で一人でも学生を海外に送り出す機会を与えることに重きを置きプログラムを実施している。

人間学部臨床心理学科　長島美七海

私たちはハワイ大学で2月4日から26日までの三週間を留学生として過ごし、授業や課外活動、諸施設への訪問等を通して多くのことを学んだ。私たちが訪れたハワイのマノア島は山と海で構成されており、温暖な気候のため冬の日本よりはるかに過ごしやすかった。日本では見られないような広い空や青い海、広大な自然といった恵まれた環境の中で学習をすることができた。大正大学は仏教系の大学であるため、ハワイ大学でも宗教の授業を受けたり浄土宗や天台宗のお寺を訪問したりした。ハワイでの経験はすべてが貴重なものだったが、宗教や仏教に関する活動は他の留学プログラムでは経験できないことなので、特に有意義で価値のある体験であったと思う。

平日の午前中は英語やハワイ文化の授業を受け、毎週水曜日の午後には日本の宗教についての授業を受けた。日本語でも理解が難しい仏教の専門用語や宗教についての講義を英語で理解することは困難であったが、よく考えた分だけ理解したときの喜びや得られる知識はとても大きかったように感じた。「あなたは宗教を持っているか」「日本の宗教をどう説明するか」という問いは、普段の生活では考えもしないことであり、その答えを自分なりに考えて英訳する課題はとても斬新で面白い体験だった。

Tendai Missionでは、住職の方から日系移民の歴史や日系移民の苦難の日々を歌った「ホレホレ節」についてのお話をうかがった。お屋敷の内装は、日本のお寺のような装飾がある土足厳禁の部屋と、大きなテーブルがある部屋とバルコニーがつながった洋風の部屋に分かれており、和洋折衷を強く感じた。ホレホレ節の歌詞に「流す涙もきびの中」という一節があり、昼夜きび畑で働きながら故郷を想って涙を流した日系移民の心情を深く読み取ることができた。

Jodo Missionでは、他の参拝者の方々と共に宗歌やお経を読ませていただいたり、淑徳大学の学生による英語のパネルシアターを見たりした。訪れる方は日系人がほとんどで、私たちの同じ日本人の顔をしたご年配の方や幼い子どもたちがとても流暢に英語を話す姿に驚いた。Jodo Missionは、まさに教会とお寺を融合させたような内装になっており、豪華絢爛な仏壇の前にパイプオルガンの音がするピアノが配置されていたのが印象的だった。

寺院訪問だけでなく、瓦屋根のようなバス停や日本語の看板など、ハワイの日常生活からも日本文化を感じることが多くあった。ハワイに滞在して間もないころは「なぜだろう」と思っていたが、学びを深めるにつれて、このような現代のハワイの有様は、明治時代から始まる日系移民の歴史や太平洋戦争での日系人の活躍によるものであることを理解することができた。私たち日本人の多くは、観光を目的としてハワイを訪れる。しかし、本当のハワイの魅力は、それだけでは到底理解しえないと感じる。先人たちがどのような想いで故郷である日本を離れ、ハワイでどのような生活を強いられ、どのような経緯で日系人がハワイでの地位を確立したのかを知ることで、現在のハワイに息づく日本文化の尊さや、ハワイが日米の親和にどれほど大きな役割を担っているかということに気付くことができると考える。この春期集中講座は、私の人生においてより大きな視野を持つための大きな契機となった。この度、このプログラムに関わってくださったすべての方々に感謝するとともに、この経験を最大限に活かして今後の学習や活動に繋げていきたい。

人間学部臨床心理学科　矢口　聖菜

私たちは、約3週間ハワイに滞在し、ハワイ大学にて春季集中講座に参加した。

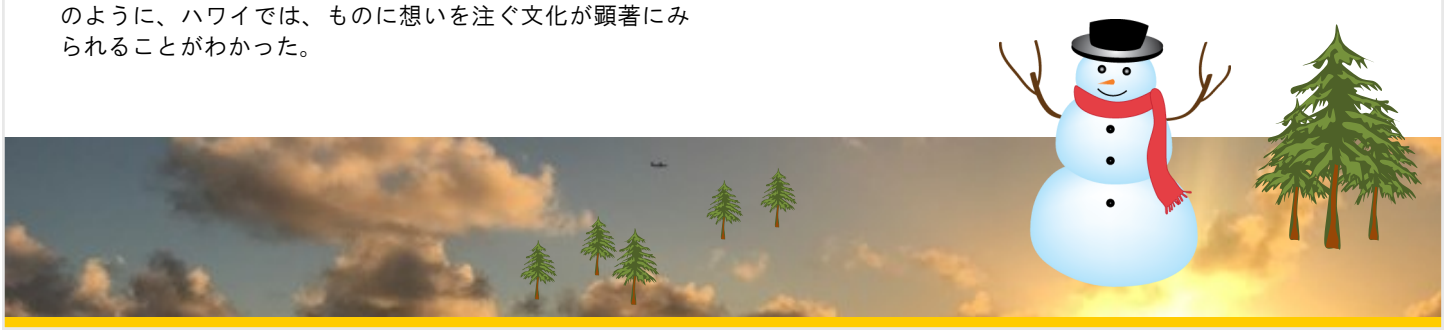
まず、国際的な視野に立ち、日本と外国（ハワイ）において異なるものを多々感じられた。ハワイ大学で仲良くなった学生Aは、日本人を勤勉で真面目と称し、日本の文化やマナーは尊敬できるものであると言っていた。これに関しては、国際的視野における日本人の特徴として私も認識していた。実際に3週間ハワイで生活したところ、スーパーマーケットのレジにおいても、日本とハワイでは接客の仕方がまるで異なり、日本人が真面目であると言われる理由がよくわかった。しかし、日本は、ハワイにあったようなフレンドリーさには欠けていると感じた。Aは、日本人を慎ましいとも言っていた。これらは、外国人の中でも良いとされる場合とされない場合があるという。接客においても、バスなど公共機関での乗客同士の態度においても、礼儀正しくはあるが壁のある笑顔ばかりであるという意見もあるそうだ。今回、実際に国際的な視野に立ち、日本人、むしろ、日本という国は、悪く言えば神経質なのかもしれないと感じた。日本の自殺率が高いことはよく知られている。私も臨床心理学科で座学において多々様々な臨床事例を学び、日本人と外国人の事例は少々異なることが多いと感じていた。今回の春季集中講座では、日本と外国の違いを直に身をもって学び、自分の専門においての日本人の捉え方にも異なる視点が得られた。

ハワイでは、シャカというハンドサインがある。これには挨拶の他に、「気軽にいこう」といったメッセージが込められている。このハンドサインは街中でもよく見られた。ハワイでは、ハワイタイムという、時間をきっちりと決めない習慣があり、それと同じように、「気軽にいこう」といったモットーが島に根付いていることがわかった。今、世界中から注目を浴びているハワイだが、日本人は特に、ハワイのような南の島で流れるゆっくりとした時間に憧れを抱いていると感じる。実際にハワイに滞在して、日々焦燥した日本人の毎日と比べ、ハワイにはゆとりのある時間が流れていることを身に感じられた。ハワイにおけるフレンドリーさはこういったものからできたのかもしれないと思った。今回、講義の中でシャカのハンドサインの由来を学んだ。その講義の内容によると、ハワイのヒーローが、真ん中の指３本を砂糖工場で失ってしまい、シャカは人々が彼を思う気持ちから生まれたという。シャカの他にも、私たちはフラダンスを体験したり、ハワイ集会議事堂を見学した。フラダンスには、ダンスの振りそれぞれに意味づけがなされていた。ハワイ集会議事堂でも、太陽と月をモチーフにしたシャンデリアなど、建築物そのものに意味づけがなされていた。さらに、ハワイでは、ウミガメなど、様々なものに神が宿るとされている。これらのように、ハワイでは、ものに想いを注ぐ文化が顕著にみられることがわかった。

さらに、実際に寺院を訪問し、ハワイの歴史、特に日系移民に関して、ハワイでの宗教観を交えながら学習した。日系移民はハワイに移民してきた人種の中で最も多く、ハワイ社会の基礎を築いてきた。アメリカ政府の斡旋による官約移民は、日本と比較して膨大な給料をもらえる、といったことを謳い文句に盛大に募集が行われたが、その実態は奴隷に近かったという。天台宗寺院、浄土宗寺院それぞれで、ほれほれ節をで聴き、そのときの日系移民のお話を涙ながら語っていただき、現在の楽園のようなハワイが、そんな彼らによって作られたことにとても感銘を受けた。浄土宗寺院では、僧侶さんが涙ながらに私たちを歓迎してくれたが、その涙からは、ハワイで日本に似た宗教を営むことが如何に大変だったか、それと同時に如何に心のよりどころであったかをひしひしと感じられた。その後、私たちはJapanese cultural of Hawaiiへ行ったが、そこでは、実際に使われていた日系移民の道具、日系移民が築いた発展の様子（日系移民が開店した理髪店の様子など）をみることができた。日系移民が如何にして苦しみ、しかし一生懸命にハワイ社会を築いたか、その軌跡を生の声と自身の目で確かめることができた。442部隊での活躍も含め、外国人から賞賛される日本人の勤勉さがハワイ社会を築いたことに感動した。

今回は、ハワイの歴史や言語、宗教観を学習した。ハワイの地を実際に歩き、ハワイの現地人と交流することで得られたハワイの文化と、今回講義で学んだハワイの言語や、歴史、宗教観がひとつのサークルとなって、自分の中でひとつの結論が導きだされた。ハワイの社会を築き上げた日系移民の歴史は決して明るいものではない。しかし、現在の楽園のようなハワイは、その暗い歴史の反動として作りあげられたのではなく、日系移民の希望によって作りあげられたのだろうと思う。優しく簡単な音からなるハワイ語、ハンドサイン、ものに込める想い、ハワイの現地人の優しさがそれを物語っているのではないだろうか。

最後に、実際にハワイで暮らし、大きな時差や距離を感じ日本を恋しいと思ったが、それは日系移民も同じ思いであったのではないかと思う。現在帰国してさらに、ハワイで知ったほれほれ節が身に染みる。



文学部歴史学科　中島　春香

■ハワイにおける宗教観と移民の歴史

私は今回の集中講座でハワイと日本の歴史的関係について数多く学ぶことができた。また、様々な施設や寺院を見学したことにより、日米関係を改めて考察し、自分の学びに大きな発見と新たな考え方を身に付けることができた。本節では、この集中講座によって経験できた数多くの体験を紹介し、その体験によって得た知識と感じたことについて言及する。

まず、ハワイ現地の天台宗と浄土宗の寺院を見学した。天台宗の寺院では、人間国宝である荒了寛先生のもとでホレホレ節を聞いた。私は初めてホレホレ節を聞いたが、当時の日本人が少しでも多くの金銭を手に入れるために働こうとする懸命さと孤独に耐える若者の気持ちに心打たれた。加えて、当時の日本人がハワイへ出稼ぎに訪れていた経緯や現地での過酷な労働状況、太平洋戦争による日米関係の実態など数多くの説明を受けた。私は大学で歴史学科に所属し、主に戦争史を中心に学んでいるため、自分の今まで学んできた事柄を照らし合わせて、新たに多くの知識を得ることができた。加えて、大正大学勤行式を両寺院で行った。佛教大学ならではの貴重な体験をすることができ、印象深かった。

また、ハワイ大学では、宗教学を専門としているモール先生から宗教に関する講義を受けた。日本の宗教や仏教の宗派について全て英語による説明を受け、とても新鮮であった。加えて、日系移民の歴史に関する質疑応答や日本の宗教に関する考察を英語で発表する課題が設けられた。日本語で発表することさえも難しい内容であったが、毎講義の前に日本の宗教について自ら調べ、英語で発表する準備を行った経験は自身の英語力を上げる重要な点になったと思う。

さらに、JCCH（ハワイ日本文化センター）では、実際に太平洋戦争に参加された方からお話を伺うことができた。当時の日本とアメリカの関係性やハワイに住んでいた日系移民が戦時中どのような扱いを受け、どのように助かることができたのか、詳しい説明を受けた。また、戦争での日系移民の活躍やハワイでの日系移民の地位の変化に関する話を個人的に伺うことができた。日系移民が人一倍働き、現地の人々から信頼を得ていく姿を想像するだけで大きな尊敬の念を抱いた。将来的に、より深く日系移民の歴史について学びたいと興味を持つことができた。このような経験は非常に貴重だった。

■国際的な視野から見た日本

私は今回の集中講座で初めて海外へ赴いた。そのため、ハワイで過ごした3週間の中で数多くの発見があった。日本とハワイを比較して、それぞれの良い点を見出し、考察することができた。本節では、ハワイと日本の比較に関する個人的な見解を述べる。

まず、私は日本人とは異なった現地の人々の優しさを感じた。このハワイ滞在期間にバスを使用して移動することが多く、バスに乗るたびに多くの人々が乗っていて座れないことが多々あった。しかし、現地の人々は他国の人間である私達にも、目が合うと、微笑んで積極的に席を譲ってくれた。また、現地での買い物も言葉が上手く通じない私に、嫌な顔をせず、注文を聞き取ろうとしてくれた。大学内のスターバックスでは、現地の一般の方が私に注文の仕方を教えてくれたこともあった。このような現地の人々の温かさに私は感動した。日本人も親切であるとよく聞くが、知らない他国の人間にも微笑みかけてくれるハワイの人々の温かさは、私にとってこの3週間を生活していく大きな活力となった。

また、このハワイ滞在で日本の良い点も改めて感じることができた。日本、日本人ならではの真面目さや時間の正確さ、誠実さに気付くことができた。日本から離れたことで、改めて日本の良さを理解し、当たり前のことが当たり前ではないことを実感した。

今回の集中講座では上記以外にも、ハワイの州庁舎や最高裁判所、様々な観光地や文化的施設を見学することができた。この経験によって、自分の学んできた英語が伝わることを実感し、自ら英語を話すことに自信が持てるようになった。また、様々な観点から視野を広く考えることができるようになったと思う。将来、ハワイ大学で学びたいと思う大きなきっかけを与えてくれたこの集中講座に心から感謝している。

表現学部表現文化学科　竹内　力哉

このレポートでは、2月5日から2月25日に大正大学によって行われたプログラム、ハワイ大学春期集中講座に参加して、私の印象や感想などを、実際私達が参加したプログラムとともに述べていく。

私にとって初めて海外に行くということもあって、このプログラムは期待とともに緊張も大きかった。特に、何年間も英語をしてきた私の英語は、現地の人々に伝わるというのが一番の心配だった。しかし、こちらから話しかけた時は、大抵の場合誰もが気さくに話してくれた。大正大学にも何人かのネイティブスピーカーの先生はいるが、何年も日本に住み、日本人の典型的な発音の間違いなどがある程度理解している先生が多い。だが、もしかしたら一度も日本人の英語を聞いたことがないという人に、自分の英語が通じ、コミュニケーションが取れたと自分で実感できた時は、非常に嬉しかった。

私達のプログラムの交通手段にはザ・バスが主だった。あらかじめ統率の先生から、このバスの中では若者は後ろの席に座り、ご年配の方には前の席を譲るというのが常識というのを聞いた。だが、これは日本のバスにもあるので、アメリカにもご年配の方には席を譲るという意識があるのかというだけで終わった。だが、ある日私がハワイのバスを利用したとき、バスは珍しいくらい手押し車を持っているご年配の方が多く、手前の席に座ることすら困難な状況だった。そのときにあるご年配の方が手押し車を押しながら入ってきた。私は後ろの方で人に押されながら、そのご年配の方を見て、どうするのだろうと思っていたが、ある黒人の女性が、そのご年配の方の手を取り、席まで誘導したのだ。まるで当たり前化のように、笑顔でその女性はご年配の方を助け、いくつか会話もしていた。降りるときも、掛け声をかけ、降りるのを補助していた。この日だけではなく、私が過ごした3週間の中でこういう光景は何度も見た。私はこの文化にとても心打たれた。日本はよく海外などから、おもてなしの文化がある国だと言われる。だが、私の知っている日本のおもてなしの文化は、私がハワイで見た光景たちにはまったく及ばない。なぜ、こんな文化の差があるのだろう。ザ・バスの中には確かにご年配や体の不自由な方には席を譲りましょうという文字が書かれていたが、それだけではない。文化や言語だけでは説明できない、もっと複雑で根強いものを私は感じた。

私はこのプログラムの一つでもある、日系移民の歴史を事前学習を踏まえ勉強した。私はこのプログラムに参加する前は、そもそも日系移民というものを知らなかった。私にとってハワイは、単に日本人が旅行で行くくらいのイメージしかなかった。だが、ハワイ浄土宗別院での礼拝、天台宗別院での荒了寛さんのお話を聞き、私達日本人が、なぜハワイに行ったのか、何を考え何を思ったのかを実際に聞き、触れるというのは非常に良い経験になった。荒了寛さんは私たちにほれほれ節という曲を聞かしてくれた。これは、ハワイを夢見て働きに行ったが、実際は辛く、厳しい労働に心折られ、自分の故郷を想い歌われた歌だ。それと、ハワイのお寺の近くには多くの墓地があった。ほとんどが十字架のキリスト教式に埋没されているが、いくつかは日本のお墓で埋没されていた。すべてのお墓が日本のほうを向いているという話を合わせ、どんなに生涯を外国で過ごそうとも、最後に思うのは祖国なんだなと、私はとても印象づけられた。ハワイ日本文化センターではレプリカではあるが、実際に日系移民が使っていた家や食器などを見ることができた。贅沢とも言えない家具たちは、今の僕達の暮らしとはかけ離れていた。もし私だったらこんなところに一日もいたくないと思うが、ここで我慢をして、お金を稼ぎ子供に教育を受けさせてあげたいという思いがあったから日系移民たちはハワイでの重労働にも耐えられたのだろう。

またこのプログラムの一環であるハワイにおける宗教観は私にとって非常に大きな経験となった。ハワイ大学の宗教学部のモール先生の授業では日本の宗教を英語で受けるという、傍から見れば不思議な光景だ。だが、私はこの授業を受けるまでは、日本の宗教というものを知らなかった。むしろ、自分から避けていたような気がする。だが、私はいい機会だと思い、モール先生から出された課題を通し、私は改めて日本においての宗教を知ることができた。ハワイでは多くの人がキリスト教の信者なのだろう。私はワイキキビーチにあるお店の前にいた一人のホームレスに思い切って話しかけた。これは、後日先生にホームレスには話しかけてはいけないと注意されたので、次回からは気をつけるが、私は小さい頃からアメリカでホームレスにお金を渡し、その人と話し、その人はホームレスになる前はなにをしていたのかを聞くのが夢だった。それを叶えるチャンスだと私は思い、数ドルかをSurveyとなのる彼に渡した。彼はありがとうと言い、目には薄っすらだが涙が見えた気がした。彼が昔海軍で皿洗いをしていたこと、昔はカルフォルニアに住んでいたことを聞いた。なぜ、私は聖書を読んでいるかと聞くと、15年前に彼の奥さんが亡くなり、彼はその日から毎日欠かさず聖書を読んでいると言ってくれた。そして、彼は私に聖書の一部を読んでくれた。私は、聖書に書かれた言葉をすべて理解することはできなかったが、彼の想いが伝わり、私も泣きそうなった。私にとって宗教は一種のコミュニケーションのツールだと思っていた、だがまた心の支えにもなるのだろう。

以上が私がハワイの3週間で学んだことだ。私には初めての経験ばかりで戸惑うシーンもいくつかあった。だが、ハワイで得た経験は必ず私の人生の中で生きると私は思う。もっと自分の英語が上達したら今度またハワイに来たいと思います。

人間学部臨床心理学科　安田　千尋

今回の集中講座を機に、私は初めて海外に出た。初の渡航経験により、感じたことや考えさせられたことが３つある。

一つ目は、自身の精神面と健康面の管理についてである。初めての海外、慣れない場所、そして母国語と異なる言語の世界での生活は、1週目は特に、予想していた以上に精神的に苦痛であった。「早く日本に帰りたい」と、ふと考えてしまうこともあった。しかし、2週目あたりから環境に慣れ始め、帰国する頃には「もう少しハワイにいてもいいな」という寂しさを感じた。この経験から、少なくとも今回の研修において、精神面ではルームメイトをはじめ、共に参加している仲間がいてくれて良かったと思っている。海外初心者の私が、たった一人で参加していたとしたら、帰国日まで気持ちを平常に保っていることは難しかっただろう。近くに同じ目線の仲間がいてくれることは、非常に心強かった。しかし同時に、もし自分がもっと英語を使いこなせていたら、たとえ一人でもそこまで苦しくはなかっただろうと考えた。今回の研修を通して、海外に出るということは、自分の英語力を確かめるのに大切なことだと分かった。英語が日常的に当たり前に使われている場所で生活をしたり、現地の方とコミュニケーションを取ることで、自分の英語力のレベルが把握でき、さらには、英語は生活するために必要不可欠なものだったので「もっと頑張らなきゃいけない」と、自然と思うことができた。モチベーションは、研修に参加する前に比べて格段に上がったと感じている。そして、健康面についてである。私は現地で足に水虫と似たような症状が現れたため、ハワイ大学の保健室で診察してもらった。特注の薬を頼む際、あらかじめ加入していた保険のおかげでかかった金額は安く済んだが、この時、万が一に備えて保険に入っておくことは本当に大事なことだと痛感した。また、ルームメイトの友人が腹痛で苦しむ姿を研修中に何度も見てきた。原因は、食べ物が体に合わなかったり、ハワイでの生活が自身に馴染まないことによるストレスなど、様々なことが考えられる。このことから、普段からかかりやすい病気等があると分かっている場合は、長期滞在の前に、現地で症状が現れたときの対処法を日本で医師に相談しておく必要があると学んだ。また、この友人の様子を見て、引率のある先生が「こういった体験を通して、自分に合った生活する場所を見つけていく」と仰っていたことが印象に残っている。

2つ目は、アメリカ人についてである。実際に現地で、見ず知らずのアメリカ人に突然話しかけても、誰もが実に自然体であった。日本人の場合は、同様に話しかけるとまず「なんだ？」とばかりに構えられてしまうような気がしていて、私もその一人だと思っている。しかし、ハワイにはフランクな人が多く、話しかけやすかった。そして、面倒見が良いところも特徴である。私は研修の間に、現地に住むたくさんのアメリカ人にお世話になった。道を尋ねると、身振り手振りもつけて丁寧に教えて下さった。私が手に持っていた地図を参考にしながら教えて下さった方、最寄りのバス停に着くまで見守っていて下さった方、ご本人が降りる予定のバス停ではなかったはずなのに、私に道を教えるためにわざわざ一緒に降車してくださった方などがいた。なかには、「どこに行きたいの」と、自ら声をかけてきて下さった方もいた。ハワイの場合は特に、常に観光客が多い土地であるからなのだろうか。日本なら冷たくされそう、と思ってしまう場面でも、アメリカ人であれば誰に聞いても優しい反応が返ってくる。お礼を言った後、にこにこと笑顔を見せて下さった方もいて、アメリカ人と話した後は、とても温かい気持ちになった。よって、日本に戻ったら、今度は私が困っている海外観光客を手助けしたいと、現地で即座に思い浮かんだ。そして、私が助けてもらって嬉しい気持ちになったのと同じように、海外観光客の方にも喜んでもらえるような手助けがしたいと考えた。そう思わせてくれるほど、この体験は私にとって宝物になった。まず、困っていそうな外国人に話しかけること自体がなかなか難しいことだとは思うが、今回の経験を励みに、実現させるための力を身に付けていきたい。

3つ目は、日本とハワイの関係についてである。現在のハワイでは在住者、観光客共に日本人が多いと聞いていたが、実際に訪れてみて、特にワイキキなど街ではよく見かけることがあった。それはなぜなのか、今回の研修で荒了寛先生やハワイ日本文化センターでの講話を聴いて、理解を深めることができた。日本とハワイは1885年のハワイへの日本人官約移民から繋がりがあり、当時日本では十分なお金を得られなかった日本人の農民が、我が子や妻など家族を支えるために、移住していたということが分かった。現在の日本とハワイの関係からは想像が難しいが、一昔前までハワイは日本人が当時「生きるため」に大切な場所であったことを知った。

私は日本人だが、ハワイにいるときはアメリカの政治のニュースですらも他人事には感じなかった。自分もアメリカ国民の一員であるように感じ、帰国後も関心が薄れることはなかった。むしろ、海外に出たことにより、世界関連の話に対する興味や関心が強くなった。また、日本で生活しているときも様々な国の出身であろう外国人を見てきたが、ハワイでも同じ経験があった。しかし、自分が実際に国外にいる時の方が、より「グルーバル社会」を意識できたように思う。そして、街や大学で外国人と言葉を交わす度に、英語の大切さや、話したいことがあるのにそれを上手く伝えられないもどかしさを痛感した。それと同時に、英語をもっと使いこなせるようになりたいという、意欲が湧いた。今後は、今回ハワイで経験したことを糧にして、さらに英語力の向上に励んでいきたい。

人間学部臨床心理学科　山中　優実

私は今回、ハワイ大学での語学研修に3週間参加させていただいた。ハワイ大学での英語の講義だけでなく、ハワイの浄土宗と天台宗、またハワイ日本文化センターに行かせていただき、ハワイ日系移民の歴史及び宗教観について勉強させていただいた。また、実際にハワイ現地の人と交流することにより、日本とは異なるアメリカ人のあり方について理解することが出来た。これは、実際にハワイ訪れたからこそ得た貴重な経験である。これから、日系移民の歴史とハワイの日本と異なる文化の違いについて述べていく。

ハワイに行き学ぶ機会が多かったのは、日系移民の歴史である。天台宗ハワイ別院に行かせていただき、荒了寛先生からハワイの日系移民についてお話をしていただいた。お金を稼ぐためにハワイへ向かった日系移民たちは、サトウキビ畑で過酷な労働環境を強いられていた。しかし、お金のやりくりがうまくいかず、そのまま日本へ帰らずハワイで生活を続けたのが日系移民の始まりだというお話を荒先生から教えていただいた。日系移民の歴史について理解したうえで、ハワイ日本文化センターに行かせていただき、日系移民がどのような暮らしをしていたのか実際の資料を見ながら理解していくことができた。ハワイ日本文化センターでは、実際に日系移民が生活で使っていた道具や写真が展示されていた。また、私が最も印象に残っているのは、日系移民たちが過酷な労働環境に対してストライキを行っている写真だ。現代のハワイでは考えられない光景であり、いかに当時の労働環境が過酷であり、現在とかけ離れたものだったのか思い知らされた。このような先住民の努力の功績があるからこそ、私たちはこのように今のハワイに行き学ぶことができるのだと考えさせられた。ハワイの人々が、我々日本人に優しく温かいのはこのような出来事があったからではないだろうか。これは、ハワイで学ぶ上で知っておかなくてはならない事実であると同時に、旅行ではなくハワイに学びに来たからこそ学ぶことのできたことである。

また、今回はダイヤモンドヘッドやパールハーバーの観光名所を訪れ、日系移民の歴史だけでなくハワイの歴史についても学び実際に触れることが出来た。パールハーバーでは、私たちが学んできた日本の歴史とは異なる、アメリカ目線での第二次世界大戦を見ることが出来た。戦争の実際の映像から、使われていた道具や資料まで見ることができ、当時の戦時中の痛々しさが感じられた。リゾート地としてのハワイに訪れるだけでなく、戦争を二度としないよう再認識するためにも、日本人がパールハーバーに訪れることは必要なことではないだろうか。アメリカの視点から戦争を見つめなおすことのできたこの機会は貴重な経験になった。

次に、私はハワイにいるからこそ出来ることをしたいと思い、一日一回はハワイ現地の人と話すということを目標にして三週間生活した。一週間に三回ある現地の学生と関わる事のできるインターチェンジでは、英語力のなさから伝えたいことが伝えられず、何度か悔しい思いをしたが、伝わらなくてもとにかく話すことを務めた。現地の学生の協力もあり言葉を汲み取ってくれ、最後には最初よりは会話も弾みつつあるように感じた。また、自分たちで買い物に行ったときや出かける際にも、積極的に現地の人に話しかけるように努めた。道を尋ねると親切に教えてくれ、そのまま少し世間話をする機会も多々あった。バスでどこを走っているのか分からなくなり、バスの中で困惑しながらマップを見ていると、現地の人が積極的に話しかけて降りる場所を教えてくれた。また、わざわざバスを降りてまで違うバス停まで歩いて案内してくれる人もいた。このような温かみのある親切さは、日本と異なると感じた。日本人も親切であることで有名だが、日本人は聞かれたら親切に教え程よい距離を保ちながら、人と関係をとっている。一方で、ハワイの人々は周りを見て積極的に助けに行くという印象だった。親切のあり方で国によって文化の違いがここまで出るのだと感心させられた。ハワイでは、目が合うと必ず微笑んでくれ、スーパーで食べ物を見ていると「これおいしいよ。」と自然に話しかけられた。人との距離が近く、関わりが多いのもハワイの文化の一つだと感じた。このような人々の協力もあり、最初は苦戦していたバスも、最終的には自分たちで行きたいところに行けるようになるまで成長した。

帰国してハワイの生活を振り返ると、非常に多くの貴重な経験をすることが出来たと思う。日系移民の歴史や現地の人との関わり、また他者と共に生活するうえでの協調性や自立性など、旅行でなく語学研修として参加したからこそ得たものが数多くあると思う。日本だけでなく海外の文化に触れたことで、自分の中で将来の選択肢も広がったように思える。ハワイの語学研修に参加したから終わりではなく、これからがスタートである。この経験を生かし、積極的に英語に関わることを継続していきたい。今回、このような貴重な機会を下さった大正大学とハワイ大学の先生方、また親に感謝したいと思う。

表現学部表現文化学科　三井　美樹

私は、今回このハワイ大学春期集中講座に参加して、日本とアメリカでは、考え方、生活スタイル、文化、歴史など大きく違うものがあると感じました。

まず、私たちは事前学習として、日系移民の歴史や宗教について学び、実際に現地の方にお話を伺う機会をいただきました。そこでは、事前学習で学んできた以上の、詳細のお話を聞くことが出来ました。当時の日本とハワイの賃金の差、稼ぎに行く人を見送る女の人の思い、日本人が異国で働くことの厳しさなど今の私たちには想像するだけで胸がいっぱいになります。また、私はフリータイムでパールハーバーに訪れました。そこでも当時の戦争のことをより近くで学ぶことが出来ました。実際に被害にあわれた方などは、パールハーバーは見たくも行きたくもない場所かもしれません。しかし、今の私たちはそこで実際に見て、現在ハワイは娯楽の場所として有名になっていますが、ハワイにも長い歴史があるということを忘れてはならないと思いました。

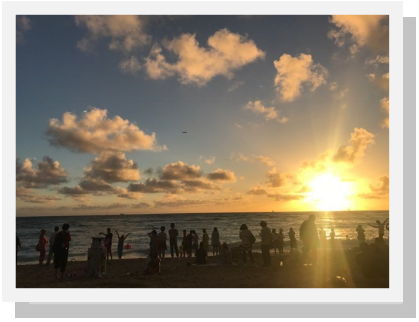
また、私は今回初めて3週間という長い期間を異国で過ごしました。

そこで私が大きく日本と違うと感じたのが、授業スタイルでした。私は、英語表現・コミュニケーションコースを専攻しているので、普段様々な英語の授業を履修しています。しかし、ハワイでの授業とはどれも違いました。まず、全員が顔を見合わせることが出来るような配置で座り、授業を受けていました。そして、授業中では、常に生徒同士で何かについて話し合い、その後先生が一人一人目を合わせ、丁寧に話を聞いてまわるという授業でした。日本では、生徒は皆先生の方に向かって座り、生徒同士で、英語で話し合うことなどたまにしかやりません。ここが大きく日本の授業とは違うところだと思いました。また、私は、先生が初めから生徒のことを名で呼び、プリントを配るときは毎回一人一人に手渡しで配る、というところにも驚きました。初めは、いきなり先生に名で呼ばれることに戸惑いもありました。しかし、授業というものは、先生だけでも、生徒だけでも成り立つものではないので、こういったところからコミュニケーションを取れているということはとてもいいなと思いました。アメリカの人は、フレンドリーで明るくて気さくだという印象を持っている人が多いと思います。アメリカの人が、フレンドリーで明るくて気さくに育つ理由は、やはりこういったオープンな授業展開からはじまっているのだろうと感じました。

最後に、私は滞在中に体験したバレンタインデーの習慣がとても印象的でした。

まず、日本では通常バレンタインデーは女の人が男の人に普段の思いを伝えるため、手作りのチョコを作って渡し、それを受け取った男の人は、ホワイトデーに何かお返しをするというのが一般的であると思います。しかし、アメリカでは、まずホワイトデーという日は存在しません。そして、バレンタインデーの日は主に男の人が女の人に気持ちを伝えるために、メッセージカードやバラの花を渡すというのが一般的であると聞きました。バレンタインデー前日では、バスの中で男の人がバラの花束を抱えているのをよく見かけました。そして当日には、お店では皆がHappy Valentine! と声をかけてくれるのがとても印象的でした。日本とアメリカでは、こういった伝統的なイベントにも大きな違いがあるのだと学ぶことが出来ました。

今回私はこのプログラムに参加して、英語の勉強はもちろん、3週間ハワイに滞在することで、日本とアメリカの違いをたくさん経験し、日本、海外それぞれの良い面・悪い面なども知ることができました。この体験を活かし、将来のため、これからも英語の勉強に励んでいきたいと思います。



人間学部環境学科　金田安希子

ハワイ大学語学研修は、私を大きく変えたわけではないし、何か特別大きなものを得たわけではなかった。しかし、小さなことかもしれないが自分でもわからない何かが変わった気がする。

私がこの語学研修に参加した理由は、今しかできないことをやろうと思ったからだ。特別英語に力を入れて勉強したいとか、ハワイに行ってみたいとか、海外に熱烈な興味を示していたわけではない。事前学習も何度か設けられていたがそこで一緒に行く仲間のうちで友達もできず、ハワイに行くことが憂鬱に感じていた。なんで自分はハワイに行くのだろうか、なぜ申し込んでしまったのか、本当に行くことが自分のためになるのか、かなり葛藤した時期もある。出発当日まで楽しみだと感じたことはほとんどなかった。しかし不思議なもので、楽しみだとは思っていなくてもなぜかハワイに着いたとたん、気持ちが舞い上がった記憶がある。これをハワイマジックと自分で呼んでいる。何もかもが新鮮で周りの風景、ただの道路でも写真を撮っていた。そんなハワイマジックが冷めることがあった。一緒に研修に参加している仲間とうまくやっていこうと頑張る自分に気が付く時だ。ほとんど、全く会話をしたことがない人と三週間共に過ごすことにとてもストレスを感じていた初めの一週間。少しずつ仲間の事、ハワイの事、授業の事をわかり始めた二週目。そして再び自分はハワイマジックにかかった三週目。この三週間のうちに何かを感じ、つかんでいたことに日本に帰国してから気が付いた。

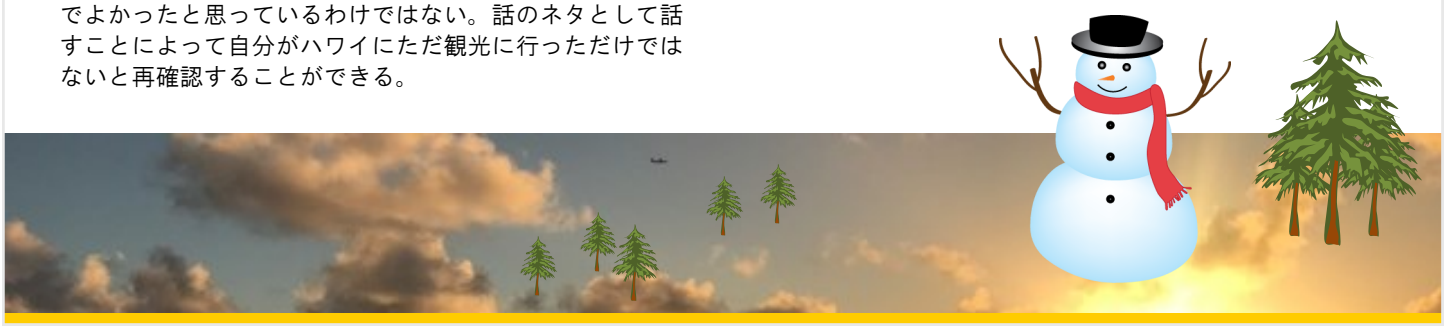
正直、ハワイの文化について学ぶために訪れた場所や授業は退屈だと感じることが多々あった。宗教や文化は興味のある人が学べばいいのではないかと思うこともあった。こんなことを先生に言ったら怒るかもしれない。しかしやはり私は帰国してから気が付いたのだ。

文化を学ぶからこそハワイについて理解をし、ハワイを語れる、とかそういうことではなく、私は何をしにハワイに行ったのか。帰国してから「ハワイどうだった？」とか「英語しゃべれるようになった？」とか多くの事を聞かれた。その時に自分は何を答えるべきなのか、一言楽しかったと言ってしまえばいい話なのだが三週間もハワイに勉強をしに行ったにもかかわらず「楽しかった」の一言で完結してしまっていいはずがない。実際、英語が話せるようになった訳でもなければ英語がとても上達したわけでもない。英語について話すことができないのならあとはハワイの観光についてしか話せなくなってしまう。そこで、フラダンスを習ったこと、パールハーバーでみた戦争の悲劇、ポイというハワイの伝統的な食べ物を食べたこと、戦争史料館に訪れたことなど観光に行くだけでは体験しきれないことを話すことにした。話のネタのためだけに文化を学んでよかったと思っているわけではない。話のネタとして話すことによって自分がハワイにただ観光に行っただけではないと再確認することができる。

私がハワイで過ごした長いようで短い三週間は私自身の人生において大きい影響を及ぼしたわけではなかった。しかし確実に言えることは、大学生になって一年間、学科のフィールドワークで宿泊をしたり、様々な土地に足を運んだり、専門的なことを学んできたけれどもこのハワイ語学研修が最も充実した、楽しかった、行ってよかったと強く感じられるものだった。狭い大正大学という枠組みの中に閉じこもっていた自分が一歩踏みだして外に出てみたら、何かが変わった、何かを手に入れた。その何かは日本人としての自覚、ハワイに来たからこそ日本について知らないことが多いと気が付くこと、自分が何を目指しているのか、今後の大学生活でなにを頑張っていくのか、自分の目標、他にももっとたくさんあると思う。その中でも自分は特に今後何がしたいかについて最も考えを巡らせた。今自分は何をやりたいのか、それは今、人生の中で一度きりしかないこの歳での大学生生活でしかできないことをやりたいと感じた。ボランティアであったり、日本に限らず様々な場所に訪れてみたり、それこそまさに勉強でもある。これは今、学生のうちにしか体験できないハワイ語学研修が、自分が想像していたものよりもはるかに充実しかつ、目で図ることのできない成長、そして新たな人間関係を築くことができたことに大きな意味がある。将来の夢を探す手掛かりになってくれればいいと思っていたハワイ語学研修は、将来の夢を探すための行動力を与えてくれたものでもあると実感している。それはモール先生の授業が最後となったハワイ滞在三週目に出会った現地の学生の話。彼は日本が大好きだと私たちに話してくれた。好きなものを追いかけて日本に行くことも多々あるらしい。将来は日本に行って働きたい、日本で英語を教える人になりたいと言っていた。私は最初にも述べたように海外に熱烈な興味を示していたわけではない。なぜハワイに来たのかも明確ではない。しかし彼は強い意思をもって日本が好きだと話す。私はまず好きなことを見つけなければならないと気が付いた。そのためにもハワイに来た理由と同様に今にしかできないことをやっていくしかないと私は思った。他の人は違う方法で今後の方向性を見つけるかもしれないが私にはこの方法が一番だと自覚した。日本に帰国し、ハワイマジックが解けたときに、再びハワイに行きたい、ハワイにも行きたいしほかのところにも行ってみたいと思ったことがハワイに行ってつかめたもののような気がする。

誰もが言うようにハワイ語学研修を終えたことはゴールではなくまぎれもなくスタート地点であると私も強く認識した。

そして、この語学研修に関わってくれたすべての人にMahalo！！！



文学部日本文学科　吉川　梨紗

はじめに

私は、2017年2月初旬から約3週間の間、ハワイ大学マノア校にて語学研修を行った。参加人数は1私含め5名。このレポートでは、私が語学研修で学んだことや日本からハワイに出て感じたことや興味・関心を抱き考えさせられたことについて具体的に述べていきたい。

参加した動機

私は、今回の研修で初めて日本から海外へ行き、日本人には無い異国の文化や考え方を学び、今後の自分の進路を広げたいと考えこの研修に参加した。中学生の頃より海外に関心があり、高校は海外への語学研修のある学校に進学したが、修業先にて水害が起き参加する事ができなかった。その経験から、一層語学研修への関心は高まり、大学に入学した際には絶対に参加しよう、という決意が生まれた。

研修内容

・TOEIC対策講座

・現地学生とのインターチェンジ

・ハワイと日系人の歴史(日本文化センター訪問)

・ハワイに根付いた仏教に関する授業

・ハワイにある天台宗と浄土宗の寺院訪問

上の写真は浄土宗とt天台宗の寺院へ研修に行った際に撮影したものである。

研修時に気がついた事・ハワイと日本の文化の相違点

多国籍社会であるため、白人、黒人、アジア系と町ゆく人々の肌や目の色はさまざまであった。観光産業の盛んな島である、ということも要因の一員ではあるがキャンパス内を歩く学生たちの人種はさまざまだった。

「アロハ」「マハロ」などが有名かつ現在のハワイでも日常的に用いられているハワイ語は文字を持たず、アメリカ合衆国併合までハワイの民族独自に発展していった言語だ。ハワイ語に見られる互いの鼻と鼻を重ね合い愛情を表現するボディ・ランゲージはあまり日本にはない文化だ。食生活も独自性があり、ココナッツやポイ芋を用いた郷土料理は、ハワイがアメリカ領となる前の原住民の頃から今まで愛されている。

寺を訪問して感じたのは「仏教の柔軟性」である。畳ばりの和室ではなく教会の面影を残し、日曜日にミサを行う。ミサ中にパイプオルガンを用い、聖書のような『おつとめ書』を持ちながら賛美歌に近い宗歌を歌うなど日本の寺院とくらべかなりキリスト教によっている。これは、日本からわたってきた仏教が、キリスト教の多かったハワイで浸透させるには、既にできていたハワイのキリスト教の形式にのっとったほうがなじみ深く、受け入れられやすかったためと考えられるが、その土地に合わせたといえど他宗教の形式に寄せることも仏教では認められるというのは衝撃的であった。

現地の宗教学の教授が「あなたはどの宗派に属しているか？」と聞いたとき、アメリカの学生は自らの信仰を述べたが、日本人は「無宗教です」と答えた。日本とアメリカの宗教に対するイメージや関わり方は全く違う。アメリカの宗教は超現象的かつスピリチュアルなものであるが、日本人にとって宗教行事は先祖が続けてきた慣習であり生活の一部である。日本には古来より八百万の神による多神教が主流であり、それゆえに複数の神をまつることにあまり抵抗を覚えない。そこがキリスト教やイスラム教などの一神教が支持されている海外諸国と日本の宗教観の違いであろう。

感想

研修時の雰囲気や様子は終始和気藹々としていた。日本人同士で話すことがほとんどだったが、学食やキャンパス内でもたびたび自主的に現地学生と接することができ、嬉しかった。最初は店で注文するのにも一苦労で注文ミスもあったが、だんだんと慣れてきて、店員の小銭の勘定間違いに気がつき指摘したり、注文ミスのないようにできた。まだまだネイティブの会話が聞き取れなかったり、会話の際の時間がかかってしまったりと英語の反省点は多いので、日本で英語を学び、もう一度語学研修に参加したい。

心理社会学部臨床心理学科　鳥居　未來

３週間ハワイに滞在して学んだこと、考えさせられたこと、感じたことを章ごとに分けて報告する。

〇日系移民の歴史について

私は荒先生やモール先生の授業、そして日本文化センターにて日系移民の歴史を学んだ。始めはハワイに日本人が移民として来ていたことに驚いた。荒先生の授業ではホレホレの唄と共に紹介してくれた。その中の歌詞の意味には農作業を必死に頑張ってもお金が少ししか貯まらない、また日本に帰りたくてもお金がないから帰れないといった当時の人たちの嘆きが込められており、この唄を聞くだけでも涙を流す人がいたという。また日本文化センターでの説明では、ハワイに来る日系移民の数が増していくにつれハワイに入れる日本人の数を制限したものの状態は変わらなかったため、ついに日本人の受け入れを禁止にした。これにより自分たちはハワイにいても、親戚が入国できない家庭があったと説明されていた。これらのことを考えて、移民としてハワイに来た人たちにとってこの地で生計を立てることや日本よりお金稼げそうなど色んな思いを持ってハワイに来る。しかし、実際暮らしてみたらほんの少ししか稼げず年月が経つたびに結婚してやがて子どもが生まれる。そうなると子どもの養育にお金を充てなければいけない。このため、帰るためのお金がなくなり、永遠にハワイにいなければいけないといった負の連鎖が起きていることや、ハワイでいつもの日本の暮らしをすることで異国に日本の文化が根付き、そこからアメリカの領土であるがアメリカと日本の２つの文化が混ざり合い、ハワイが独特の文化を持ち今でも浄土宗や天台宗のお寺が建っているように感じられた。

〇ハワイの歴史・言語

ハワイ語に関してはロバート先生のフラの授業やカイアリイイ先生の特別授業の時に習った。ハワイ語を習った時にロバート先生のプリントには単語しか触れられていなかった。このことに不思議に思い、ハワイ語は英語のように名詞・動詞の文型があるものではなく単語で話すのかと考えた。またハワイ語には７個しかアルファベットがなく、これは世界で一番短いアルファベットだとプリントに記載されていた。わずかなアルファベットの数を使って言葉を表したり、会話したり、またハワイ語という1つの言語として使われていたことに単純にすごいと感じた。それは英語だとアルファベット数２５個、日本だと５０音あれば色んな物事を表現することができるが、７個で物事を表現することができたと考えると当時使っていた人や作り出した人たちの知恵は計り知れないくらい凄いだろうなあと感じられた。またハワイ語に文型がないのか友達に聞いてみると、「文型はあるが英語とは違い、動詞が最初に来る。日本語に表すと、例えばいるよ、僕はという感じかな。」と説明してくれた。後に文型がなかったら普通会話できないだろう？と気づけたが、動詞から文が始まるといった言語はハワイ語を習うまで今まで聞いたことがなかった。このことに新鮮さを感じた。また、ハワイ語の単語を見返した時に一単語で長い意味をもつものがある。例えばアフプアアは山から海までの陸の分裂を意味する。このことには他の言語と比べたら変わっていると感じた。なぜなら、英語だったらこの意味を表現するだけで一語では無理があるし、どんな背景でハワイ語が使われていたか知らないが、当時ハワイ語が使っていた人たちにとって普段から何気なく使われていた表現かなと思ったからだ。

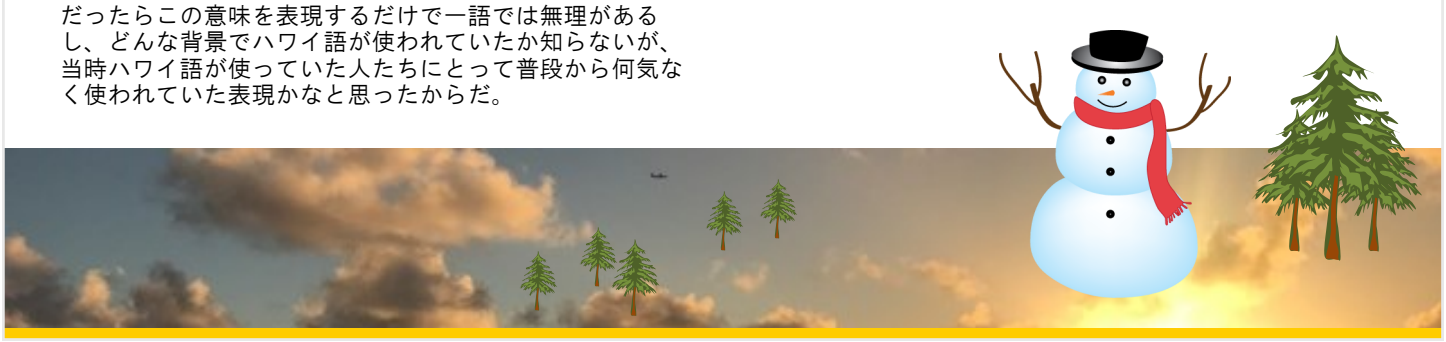
このことから、ハワイ語は他の言語と比べて異なるところが多々あったが、その分その土地でしか使われていない独特な表現や言い回しがあるのだと考えた。

ハワイの歴史については日系移民からの繋がりや、ハワイ王国、またフラダンスからハワイの独特な歴史を学んだ。その中で一番印象的に残っているのは日系移民からの繋がりで、これはなぜハワイにはミックスした人種が多いのかと繋がっている。また日本文化センターで今の日系人は４世までいると聞いて、とても長く続いている訳ではなく最近できたばかりという感覚がした。移民してくる１世目は日本人であり、カップルも他の人種が混ざることなく日本人同士になること多かったことから２世の顔立ちも日本人だった。しかし、ここから中国人などの他の人種同士が結婚する人が増え、３世から顔立ちが異なってきた。ちなみにインターチェンジの時に一緒に話したワードさんも日系３世だと聞いた。このことから、移民してきたばかりの頃は異国の雰囲気になじめなかったり巡り合う機会が少なかったせいか、日本語の新聞やお見合い写真を通して日本人同士でつながりを作ったりすることが多かったものの、日系アメリカ人として戦争で収集された時は、本土のアメリカ人に賞賛されるほど武器や機械をうまくこなしたりと活躍していたことやハワイに色んな国の人が入ってくるようになったことから、これ以降他の人種と関わることが多くなり、結婚してハーフの子どもが多く生まれるようになったのではないかと考えた。そのため、今若くして生きる４世もインターチェンジで話した人をみると日本人の面影はあるものの、より外国人に近い顔立ちになっているように見えた。

〇アメリカ文化・日本の文化の違い

文化の違いで一番驚いたのは食事量だった。１つの食事につくご飯の量が多いためレストランやカフェ、またブッフェでのメニューで見た目から食べられそうでも食べきれないことが多々あった。日本だと１つのメニューでもお腹が満たされるか満たされないくらいになるが、普段アメリカ人が何気なく取っている食事の量は、比べてみると想像しきれない程食べているのではないかと考えた。

他にも色んな人種が集っていることである。日本では街中を歩いていると黄色人種しかいないことが多いが、海外ではアジア系の人や黒人の人、また白人など色んな人種の人たちが歩いているのをよく見かける。アメリカとは言え、アジア系やヨーロッパ系など色んなアメリカ人がいるため、同じアメリカ人でもその人の祖先や背景が異なっているように感じた。また皆それぞれ見た目から異なっているからこそ、その人自身の背景や個性がありその個人が集まることで、アメリカは多様性を持つ国であることを表現しているのではないかと推察した。



文学部歴史学科　中島　夏希

ハワイで感じたこと

今回の研修で感じた日本との違いは3点ある。

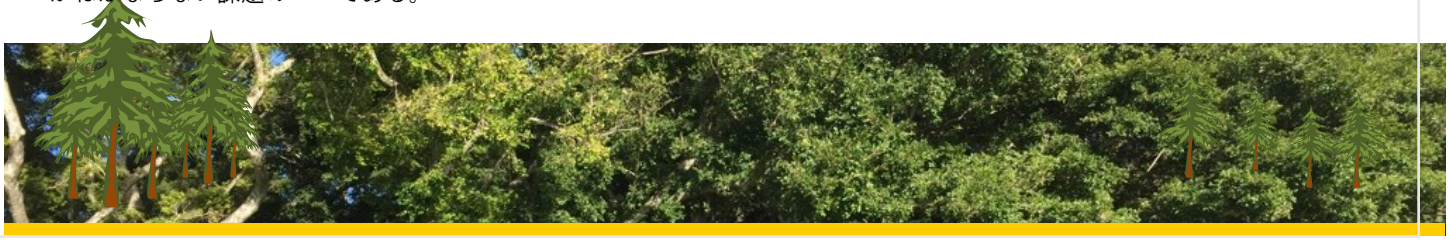
第1に人種の多さである。アジア諸国との混血、ハワイ先住民の人々など見た目や体格も様々な人がいた。また、刺青を入れている人も目に付いた。日本では外国人や刺青を入れている人が少ないため、刺青を入れる文化に驚嘆した。

第2は日本とのマナーの違いである。日本では物を買うなどサービスを受ける際にチップを渡す文化がないためアメリカのチップ文化に戸惑った。また、バスの座席や店に入る際には女性や子供、お年寄りを優先するなど日本も見習うべき文化があった。

第3にバリアフリーについてである。日本では視覚障害者のための点字ブロックが多く設置されているがハワイには少ない。また、トイレなども数や標識も少ないうえショッピングセンターのフードコートにおいても下水のにおいが立ち込めることもあった。

考えたこと

今回の研修でハワイの文化や人々と交流して考えたことは日本人は古い固定観念を捨て、視野を広げ自分の意見を伝えていくことが必要ということだ。日本の古い固定観念の例として刺青が挙げられる。日本では多くの温泉やプールなどのレジャー施設が体に刺青を入れている人の利用を禁じている。これは江戸時代に体に刺青を入れるという刑罰があったことや映画などの悪役が刺青を入れていることがあるから刺青がよくないものというイメージが出来上がったからだと考えられる。また、日本人は1760年から1806年にかけて鎖国していたため狭い社会の中で内向的になった。これらは日本人の特徴とも捉えられるが多くの外国人が訪れるようになった現在ではこの特徴は直していかねばならない課題の一つである。



表現学部表現文化学科　末次みのり

このプログラムに参加して得られたものは「積極性」である。日本人の特徴として「消極的」とよく言われるが、このプログラムに参加するまで私はそのいい例だった。そんな私が何故「積極性」を得られたのかというと、現地人がみな親切でフレンドリーだったからだ。

例えば買い物の会計の場面では、「Hi」の後に「How are you?」と尋ねてくる上に最後には「Have a nice day!」という言葉をかけてくれる。ご飯を食べに行くとテーブル担当の方が挨拶と一緒に話しかけてくれるのはどのお店でもそうだった。あるお店ではメニューが英語のみであるため日本人の私たちにもわかるようにと、厨房へ料理の写真を撮りに行き一つ一つ料理の説明を自ら率先して接客してくれた。バスに乗ると、見知らぬ人でも席が空いていることを教えてくれる。それにバスに乗る直前で定期券が見当たらないことが何度かあったが、その度に運転手が無賃にしてくれると言うのだ。

多くの人に親切にしてもらい、それに感謝の気持ちや親切で返す度に自然と「積極性」を得られた。それは英語のみしか使えないハワイで、もらった親切を同じ度合いで返すのは容易なことではないため、いかに伝えたいことが相手に伝わるかがカギとなる。そこで私は、持ち合わせているボキャブラリーが少なくても相手に伝わるようなコミュニケーションをとることを心掛けたのだ。そのことを意識したうえで対話をすると、授業も一層濃いものになるし気持ちの良いコミュニケーションをとれるうえに現地に馴染めた気がする。

わたしがこのプログラムに参加した理由は、英語と現地の文化の知識を学ぶためである。この目的以上のものを得られたと感じたのは、「積極性」を得られたからであろう。これは現地だけでなく、日本で大いに活用できる能力だと考えている。授業が楽しいと思えたのも積極的に発言しに行き、深みのある授業になったからではないだろうか。せっかく得られた能力を無駄にしないためにも大正大学で多くのことにチャレンジをし、将来の夢に一歩でも近づくように精進していきたいと強く思った。このプログラムに参加して自分の目標が明確になり、長期留学を見据えて英語にさらに関心がもてた。この「積極性」が持ち味になるように自分のものにし、磨いていきたい。

心理社会学部人間科学科　石橋　美空

初めてのハワイ、異なった言語、知り合って間もない人たちとの三週間は緊張と不安でいっぱいだった。今三週間を終えてとても貴重で濃い三週間だったと思う。

外国人の先生と三週間英語の授業は難しいと思っていたが、ロバート先生は笑顔でフレンドリーに接してきてくれた。そして、ゆっくりと易しい英語で話してくれた。頑張ろうという気持ちと、不安な気持ちが両方あったが自分は頑張ろうと後押しされた。そして、必死に英語を聞き取ろうと集中して話をきいた。徐々に耳が慣れたのか、英単語が耳に入ってくるようになった。週に三回、学生と交流するインターチェンジがあった。コミュニケーション力もなく、英語力もない自分は不安しかなかった。しかし、インターチェンジの生徒はゆっくりと易しい英語で話してくれて、徐々に打ち解けていた。自分が言いたいことを必死に表現すると彼らは必死に理解しようと耳を傾けてくれたり、正しい英語を教えてくれたりした。不安しかなかったインターチェンジだったが、最後には楽しく終わるのが惜しくなっていた。なかに、四カ国語を話せるという生徒や、日本語を少し話せる生徒がいた。彼は日本語の勉強を始めて三年めだそうだ。自分は小学生の頃から英語を勉強しているのに日本語と英語を少ししか話すことができなくて、悔しく、情けなくなった。もっと英語を話せるように頑張ろうと思った。自分の伝えたいこと、言いたいことがすぐに英語に言い表すことができずに歯がゆく、悔しかった。しかし、だからといって自分の意見を言わない、笑顔でごまかすのもよくないと思った。相手は必死に聞き取ろうとしてくれているのに、対話をしているのにそのような態度をとるのはよくないと思った。ジェスチャーや、単語でも少しでも伝わるように努力した。徐々に英語を話すこと、自分の考えを英語にすることに抵抗が無くなってきて、自分の英語を相手が聞き取ってくれ、会話が弾むと楽しく、徐々に自信がうまれた。気が付くと、授業で抵抗なく手を挙げて答えたり、昨日の出来事を発表していたりした。三週間だけでもこんなにも自分は変わるのだと驚いた。日本語のみではなく、他の言語が話せるだけで世界は何倍にも広がるのだなと思った。英語力をもっともっと上げていきたいと強く思った。

次に集団行動についてである。語学研修の他に知り合って間もない15人で行動を共にするという大切なことがあった。集合時間に遅れない、授業を共に受けて協力し合う、気遣い、会話など集団行動をするにあたって守らなくてはいけないことや、考えることがたくさんあった。色々な考えを持った人がいる中でどのようにしたらみんなが納得のいく集団行動ができるのか、どのようにしたらみんなが平等に集団行動がうまくいくのか考えさせられた。また長期の間、親元を離れて生活したことがなかったため自分で生活していくことが不安であった。自分は特に朝が弱いため一人で起きられるか心配だったが、ルームメイトが起こしてくれたり、毎日規則正しい生活を送っていたため体内時計ができ、自然と目覚めたりするようになった。洗濯などもルームメイトと協力をして、干したり畳んだりした。日本にいるときはやらないだけで、よろうと思えばどんなことでもできると思った。

また、日頃の生活をとおして感じたことはハワイには色々な人種の人がいることである。日系人も多く、また観光客でも日本人は多いため自分も溶け込んでいるようであった。よってこの語学研修をとおして、ハワイと日本がどのように交流し、移民が増えたのか、そして戦争をとおして現代に続いていることなどに興味深く知ることができた。インターチェンジのある生徒は、アメリカが目指しているのはハワイのような国だと教えてくれた。ハワイは人種差別がほとんどなく、順番を守ったり、時間を守ったりすることができると教えてくれた。街中へ行くと、人気なパンケーキ屋には行列を作って待っていたり、バスに乗ると、一人でも多くの人を椅子に座れるよう席をつめてくれたり、声をかけてくれたりした。また、食堂やお店から出るときは必ず前に出た人が扉を開けて待っていてくれた。心が温まり自分も真似しようと思った。優しい人が多く穏やかに時間が流れているように感じた。

日本での毎日は、分刻みの満員電車に揺られ、早歩きで乗り換えをして大学へ行き、大人数で教授の講義を90分間受けるという毎日だったが、ハワイでの毎日は、大自然の中を歩いて登校し、少人数授業で受け身ではなく参加型の授業を受けるという毎日であった。ハワイでの毎日は日本での毎日とは異なったものでありびっくりした。

ハワイでの三週間は貴重な経験と財産、たくさんの思い出になった。共に生活し支えあった14人と先生、後押しし援助してくれた両親やロバート先生に感謝したい。そしてこの経験を忘れず、今後の生活や人生に生かしていきたいと思う。

表現学部表現文化学科　小助川夏観

はじめに

今回3週間という長くも短いこの語学研修には、私のこれからの学生生活をより豊かにしてくれるものがあるに違いない、と確信をして参加を決めました。そこから半年にわたっての申し込み、事前学習などを経て、私は初めてがたくさんの異文化に触れながらハワイ大学の特別プログラムであるOutreach Collegeを卒業することができたことをとても嬉しく感じています。

加えて寒さが厳しさを増している2月の日本から離れ、温暖な気候であるハワイを満喫しながら英語が学べる環境があるなんてとても恵まれているなと思い、1日1日を大切に過ごしたいなと考えていました。

2. 苦労したこととインターチェンジ

英語を主に使う生活を始めてまず、一番に痛感したこと、はやっぱり自分の単語力のなさでした。授業などで言いたいこと、発言したいことはたくさんあるのに納得のいく言い回しが出てこない、最初のうちはそんなことにずっとこだわっていて、悩まされていました。

しかし間もなくして、インターチェンジの生徒たちと会話をする授業が始まりました。私の初めての相手はアリーシャという日本について学んでいる生徒でした。彼女は将来日本で英語を教えたいと言っていて、私と同じように外国語を学んでいるんだと思うと、とても親近感が湧きました。始まる前は相手の言っていることが理解できるか、話はちゃんと弾むか、など不安は尽きませんでしたが、私はそこで日常会話の方が得意であることに気がついたのです。同じ年代の女の子が話し相手なので少し早口な部分があるのですが、すんなりと相手が言っている意味を理解することができました。また、日本語で考えるよりも先に英語の相槌が自然と打てたり、熟語で答えることができたことには少々の感動を覚えました。文法にこだわらなくても伝えることができることを体感してからは、最初はあんなに構えていたインターチェンジの時間がいつの間にかとても楽しみになっていました。

さらに後日ペアになったワードという男性は、歳が私とはだいぶ離れてはいたのですがその分話しに重みが感じられ、間違っている文章などをすぐに指摘もしてくれて、とても有意義な時間が過ごせたと思います。

この3週間でたくさんの現地のインターチェンジの生徒さんたちと会話をして、皆「あなたの英語はしっかりしている。なんの問題もない。」と声をかけていただいたことで、私は自分の英語のコミュニケーション力に自信を持つことができました。そして会話をしていて感じたことの一つに、インターチェンジの皆さんは日本がとても好きだということがあります。日本のあの観光地に行った、あの日本食が食べたいと言われると自分の国がとても誇らしく思えたこともいいことだなと感じました。皆さんには日本にいるだけでは考えもしないようなことをたくさん感じさせてもらいました。

ハワイと日本の歴史

今となってはたくさんの日本人観光客が訪れているハワイですが、昔は戦争で敵対関係にあり、実際に日本が攻撃をした過去もあるということ、それは忘れてはならない事実であることもこの研修中にたくさん学びました。日本に帰れずにハワイの地で家族を持ったという女性の歌、日本に帰れない人たちが建てたお寺など、楽しい観光地の裏にはそのような悲しい歴史もあることを知っているのと知らないのとでは見え方が大きく違ってくると思います。自らそういった歴史に触れる機会を設けるのはなかなか難しいので、いくつかのスポットを巡り、お話だけでも拝聴することができて良かったです。これからも、日本とハワイには友好な関係を保ってほしいと願うばかりです。

結び

終わってみると早すぎる3週間だったな、とつくづく感じています。しかし短期間のうちにこんなにたくさんのことを見て、触れて、吸収できたことは今までにありませんでした。毎日やりたいことを自分で考えて、決めて、行動に移す。自立している自分に出会えたこと、全てが新鮮でした。

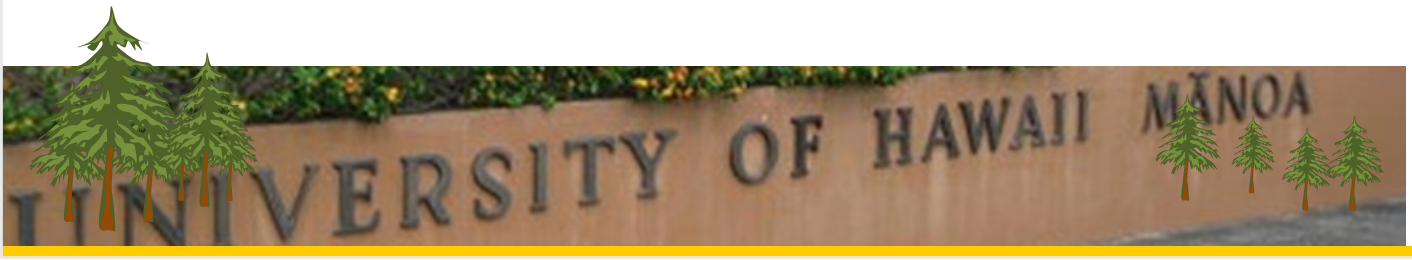
日本でも続けていきたいと思うことができるのは、いつか再びハワイに戻った時に自分の成長をぜひ見てもらいたい先生たちの存在があるからだと思います。なかなか発言する勇気の出ない私たちに最後まで付き合ってくれたロバート先生、宗教関係の生徒がいなかったので難しすぎたモール先生の授業、たくさんの刺激を受けました。実際に水族館へ行ったり、ダウンタウンへ行ったりする座学だけではないプログラムもとても良かったです。

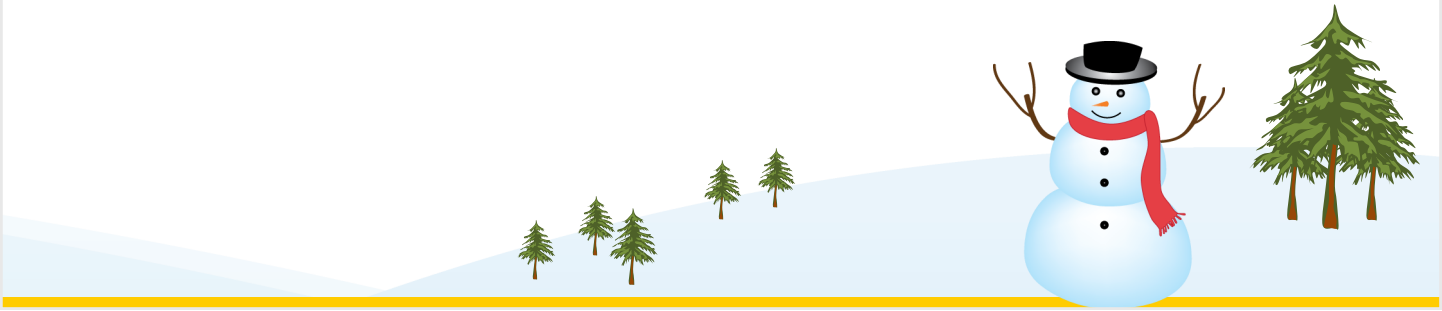
受験期には英語の成績が伸びずに英語を嫌いになりかけたこともありましたが、諦めないで少しづつでも勉強してきて良かったです。そのおかげでこんなに素敵な経験をすることができたと思っています。次に海外へ行くことがあればもっといろんな人と話をして接して、自分の引き出しを増やしていきたいと考えています。

表現学部表現文化学科　大政　初帆

私は今まで旅行で海外に訪れたことは2回ほどあります。ですが留学で海外に訪れたのは初めてで、三週間海外に滞在することも初めてだった私は行く前は不安で胸がいっぱいでした。ハワイ大学に訪れ、まず一番に驚いたのはハワイの暖かく、湿度の少ない気候と大学の規模です。大学は大正大学が100個入ってしまうくらいの大きさで、大学内でバスが通っていたりカフェがいくつもあったり２４時間営業の図書館があったりと設備も充実していました。そんな恵まれた大学でハワイ大学の生徒さんとお話しするインターチェンジという授業に参加させていただきました。日本人はシャイで誠実で少し堅苦しい部分がありますがハワイ大学の生徒さん達はとてもフレンドリーで気さくで感情が非常に豊かで、母国語はお互いに全く違うのに楽しく話すことができ、とても良い経験となりました。インターチェンジで生徒さんに日本人の印象を伺ってみると、やはり真面目やシャイに感じると言葉を聞き、アメリカ人の表現力が豊かでマイペースな部分を非常に見習いたいと感じました。

授業がない休日には、まず交通手段であるバスが時間通りに到着しなかったり、例え時間より早めにバスが到着しても出発予定時刻の前に出発してしまい困ったこともよくありました。日本でバスや電車は到着予定時刻ぴったりに来るのが当たり前になっていたので驚きました。そして私が最も考えさせられたのは食文化の違いです。買い物をしようとスーパーマーケットに訪れると、一つ一つ食べ物が日本の2倍も大きいのでその分カートも大きかったですが食料品は種類も豊富なため、見ていても飽きませんでした。レストランに訪れても食べ物の量は多く、日本のように薄味ではなく全て濃く感じました。なぜ日本人は薄味を好み、一つの食事が少ないのか、そしてチップ制度がなぜ日本では行わないのか様々な疑問がこのプログラムを通して増え、そして文化が異なるだけで多くの発見があり、もっとアメリカやその他の国の文化について学びたいと思える講座となりました。初めは不安で胸がいっぱいだった私も現地に訪れるとアメリカ人の人の良さや様々な文化の違いを肌で感じることができ、非常に良い経験となりました。この3週間で留学生として海外へ訪れることの大切さと、たくさんの国の方々とお話しすることによって自分とは違った特徴を学べました。





017 Taisho University Itinerary of Intercultural Studies at University of Hawa

			2月1日（水）	2月2日（木）	2月3日（金）	2月4日（土）
						19:00 Dep. Narita Airport 06:50 Arriving at Honolulu
2月05日（日）	2月06日（月）	2月07日（火）	2月08日（水）	2月09日（木）	2月10日（金）	2月11日（土）
11:00 Brunch	8:30 – 9:30 Greeting and Introduction	8:30 – 10:30 Class	8:30 – 09:30 Class 10:00 MIX Meeting	8:30 – 10:30 10:30 – 12:20 Class	8:30 – 09:30 Class	Kailua City
The Bus Instruction	10:15 – 12:20 Orientation and Campus tour	10:30 – 12:20 Class	09:30 – 12:20 Interchange with UH students & Class	14:00 - 15:00 Special Lecture (Ms. Shantelle Kaaialii) Kuykendall 307	09:30 – 12:20 Interchange with UH students & Class	Kailua Beach
Walmart, etc	Lunch 1:30 - 15:00 Campus Tour	OP	15:00 - 16:00 Lecture (Dr.Mohr)	Prof. Nagashima	1:30-16:30 Tendai Mission of Hawaii Jodo Mission (Dinner)	Men's basketball (UC IRVINE) 7:30 STAN SHERIFF
2月12日（日）	2月13日（月）	2月14日（火）	2月15日（水）	2月16日（木）	2月17日（金）	2月18日（土）
10:00-12:00 Jodo Mission of Hawaii	8:30 – 9:30 Class	8:30 – 10:30 Class	8:30 – 9:30 Class	8:30 – 10:30 Class	8:30 – 9:30 Class	Kapiolani Farmers Market
	09:30 – 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 – 12:20 Class	09:30 – 12:20 Interchange with UH students & Hula	10:30 – 12:20 Class	09:30 – 12:20 Interchange with UH students & Class	Diamond Head Climbing
OP	PM2:00 the Hawaii Capital State Tour	PM2:00 Honolulu Academy of Arts	15:00 - 16:00 Lecture (Dr.Mohr)	(UC SANTA BARBARA)	13:30 - 16:00 Japanese Cultural Center of Hawaii	
2月19日（日）	2月20日（月）	2月21日（火）	2月22日（水）	2月23日（木）	2月24日（金）	2月25日（土）
10:00-12:00 OP Jodo Mission of Hawaii	8:30 – 13:30 Off-Campus	8:30 – 10:30 Class	8:30 – 9:30 Class	8:30 – 10:30 Class	8:30 – 11:30 Class	09:20 Dep.Honolulu Airport
OP	President' Day	10:30 – 12:20 Educational Activity	09:30 – 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 – 12:20 Class	Graduation Ceremony	2月26日（日） 13:45 Arriving at Narita
	OP	Education Activity Honolulu Zoo	15:00 - 16:00 Lecture (Dr.Mohr)	OP	OP	

No.2
No.6
No.4
No.20,22,23
No.13
Waikiki GateWay
A
Prospect St
Lunalilo Fwy
Pilikoi St
S King St
Metcalf St
Museum of Art
Spalding House
Manoa Valley
District Park
Mu Ryan
Buddhist Te
Punahou School
Mid-Pacific Institute
Honolulu
Museum of Art
Transportation
Dept
Neal S.
Blaisdell Center
Ward Farmers Market
Ala Moana Center
Hawaii at Manoa
Palolo Valley
District Park
10th Ave
Les Murakami
Baseball Stadium
Chaminade University
of Honolulu
Hobbietat
Nervous Water
Fly Fishers
Tennis Courts
Beach Park
Kahanamoku
Beach
Ohana
Waikiki Shell
Kuhio Beach Park
Honolulu Zoo
Diamond
Head Theatre
Leahi
Hospital
6th Ave
Kapiolani
Community College
地図データ ©2013 Google, Sanborn
利用規約

成果は数字で測れない

報告書の中に、学生たちが強く感じ取っている「世界の中の日本」についてこう述べている。

「グローバル化が進み、日本にいながら世界と繋がることが容易になった今だからこそ、外国に行く必要がなくなったのではなく、むしろ実際に行ってみて自らの目で見たことを、自分自身で考えることがとても重要になってくるのではないかと思う。井の中の蛙になってはもったいない。」「日本の歴史からも分かる。島国だから、ということを言い訳に、なかなか世界と触れ合おうと行動してこなかった自分が、結局はすごく日本人らしいと思った。日本のことは好きであり、日本人らしい自分も好きだが、今回の経験を通して、もっと日本を知るべきだと感じ、さらに考えるだけでなく行動し世界に触れたいと思った。」彼らの言葉ですべてを語っているように思われる。外向的になれずに「内向化」になりつつある大学生たちが多い中で、このような気持ちを少しでもファシリテートできたなら、私達、国際教育を担当する者としては、今後の学生に示すべき操舵は自ずと預けられたのではないかと思う。

今後とも、きっかけを作ること、学生自らに気づきと発見を大切にプログラムの推進に邁進したいと考えている。

ハワイ語学研修文集 2017

東京都豊島区西巣鴨3-20-1
大正大学
教務部教育支援課

電話番号: 03-5394-3039
電子メール: kokusai@mail.tais.ac.jp